

北海道リスタート助成事業

特定非営利活動法人 ねっこぼっこのいえ
2022年度オーダーメイドな相談支援事業

事業報告

2021年4月1日～2022年2月28日



特定非営利活動法人 ねっこぼっこのいえ

👣 あゆみ



- 2007年6月4日

しのめ幼稚園・幼稚園保護者・月寒教会3者で協力運営
する 『ねっこぼっこのいえ』 “**多世代**”ひろばをスタート

- 2011年10月

『**札幌市地域子育て支援拠点**』として市より指定を受ける。

- 2012年12月 既存の組織から独立し単体の組織として運営
- 2018年1月 NPO法人格を取得

※地域子育て支援拠点は中学校区に一つ設けられている

ねっこぼっこのいえ 一言でいえば…

- 地域の中にある、誰が、いつたずねてもよい

安心で安全なみんなの “居場所”

- 1) 様々な世代、多様な人々が気軽に集える、顔と顔を合わせて築き上げる関係性のある場
- 2) 誰もが、否定されることなく、丸ごと受け止めあい、弱さをゆるしゆるされる体験を通し、お互いの存在を尊敬し、違いを認め合い、人間同士の信頼関係が築き上げられていく場
- 3) お互いさまの関係を、参加している人々と共に創りだす場
- 4) 生きる力を回復し、自分自身や人々に対しての信頼を取り戻し、人の中で生きていくことに希望をもち、ひとりひとりの命が肯定される平和な社会を創り出すことに寄与する場

(設立趣意書より)



安心安全、信頼が培われている居場所だから

ここでの何気ないおしゃべりの中から、困りごとや悩みも吐露することができる！！！！

オーダーメイドな相談支援事業

事業概要

困りごとのさなかにいる時は、軽くおぼれている感じがする…
海面の向こうの空はうっすらと見えるけれど、手を伸ばしても
その海面からは出られない (あるひろば参加者の言葉)



誰かがまず一緒に…

- ・日々の活動を通して寄せられる様々な相談事を、支援を必要とする人と共に**整理**をし、官民の様々な支援体制に**繋いだり、その必要なサポートを行う**ことで問題の解決に向かう。
- ・支援を必要とする人が、本人だけでは諸手続等に困難さを抱える場合、相談者が役所等に**付添い**、一緒に手続などを行う。
- ・支援を必要とする人が諸手続きを行う場合は、その人にあった**柔軟で個別**な支援を行う。
- ・必要な**関係機関との連携**を取りながら、支援の内容を考える。

《事業実施による結果》

1) 相談先や支援先が見つかった！

各種福祉制度の紹介・自立支援制度の情報を提供

地域包括支援センターの紹介

シングル家庭を多方面からサポートしてくれる団体の紹介

訪問型子育て支援事業を行っている団体の紹介

その事業内容の紹介

若者の就労支援・学習支援の情報の提供 など

2) 支援先に出向くことができた！

コロナに関わる給付金申請の窓口自ら電話をして繋がる
ことができた。

精神疾患をかかえる要支援者が、申請窓口まで赴き、現在の
公的な支払い状況など、今後の手続きに必要なことがあるこ
とを確認できた。

訪ねたことはあっても、その後行きづらくなっていた窓口を
再度訪ねることができた。

など

関わったケースは、
相談員がそばで、また一緒に同行することで可能に。
65件中65件 100パーセント同行

3) サービス申請ができた！

区役所などの公的な窓口と一緒に赴き資料や書類を受け取り、期日までに書類を作成・申請を行った。
障がい年金申請のために必要な書類を、相談しながら作成をすることもできた。
シングルの家庭などは子どもを抱えながら各種必要団体へ一緒に登録をした。

など

※窓口でのやり取りには、様々な心的・物理的なハードルがある。同行することで、何に困難さを覚えているかを一緒に感じたり考えたりすることが可能になり、申請もスムーズに。

4) サービスを理解し選択できた！

生活保護制度の仕組みや自立支援で使える内容条件などの説明、今後の手続き上の注意も確認してきた。

引越しに伴う内見や契約の際には、一人での判断は難しいという依頼があり、同行の上、契約内容を一緒に確認をした。本人自身の判断をサポートできた。

関係機関の会議で出された話の内容を再度確認することで、自身も振り返ることができた。

など

※“その場” での選択の後押しのために同行し、
その場ではなかなか理解しづらい事柄の理解のために、
あとからもう一度、の、再確認の大切さがある。

5) 居場所を見出せた！

居住地に近い子育てサロン、若者が良く利用する若者総合 支援センターや、YOUTH、NPO法人CAN など、年齢や必 用に応じて一人ひとりに行きやすい場所を紹介し、必用で あれば一緒に訪ねた。

ねっこぼっこのいえばかりではなく、新しい居場所とも出会い、安心して利用してくれるようになった要支援者もいる…

※ よりその人の必要に応じた、訪ねることのできる安心できる場を持つことは、

本人が困り感を抱えた時に気持ちを吐露しやすく、サポートに繋がりやすくなる…

6) 問題解決へ

今ある状況を整理することで、必要なことは何か、という選択の上で、必要な手立てに踏み切った要支援者、自分一人では処理不可能であった複雑な債務処理や、各種公的な保険の手続きを相談者が同行することにより一つ一つ進める要支援者、自身の生活をどう立て直していくのが一番良いのか逡巡しながらも、途切れなく細く相談を持ち掛けながら現状の生活を続けている 要支援者。本人たちの気付き考えに寄り添う関りを心がけた。

一つのゴールに、まず、何とかたどり着く。
それも大きな一歩。問題が一つ確かに解決。
そのあとにまた次の課題が見えてきてはいるが、誰かが必ず困った時はサポートしてくれる、と気付いたことは、次の一歩に必ず繋がる。



《想定していた地域の課題》

- コロナ感染の流行に伴い、多くの家庭が家にこもらざるを得ない状況が強いられている。
- その中で、困難さを抱えている、生きづらさを抱えている人たちは、このコロナ禍においては、ますます繋がりが希薄になり、相談すること自体、又窓口に赴くことには一層の躊躇を感じている。
- このようなの中では、ぎりぎりの状況になるまで相談を持ち掛けられず、特に困難さを抱えている人は、より深刻な状況に追い込まれてしまう。

➡ これらの課題設定は妥当で、事業実施の意義はあった！

《実施によって見えてきた地域の課題》

- 1) ねっこぼっこのいえのような居場所に、そもそも繋がりがきれていない人たちが実はまだまだ多く、困り感を外に出せずに抱え込んでいる人は多い。

※地域子育て支援拠点は中学校区に一つ設置されているが、
多世代が集える場所は稀である。

※立ち寄りやすい家庭や学校・職場以外の安心できる居場所に出会う機会がなければ、もっと手前で困り感を吐露することはできない。

《実施によって見えてきた地域の課題》

2) 今の支援体制ではカバーしきれない、狭間におちこむ困りごとがあり、必要なタイミングで支援が届けられない。

例えば…

- ・ シングルの家庭で、保護者が急に病気になった時…
緊急で助けてくれる手が見いだせない…
連休や年末年始のサポートが手薄…
- ・ 自宅以外に泊まるのに抵抗がある人に対しての産前産後サポートの体制は…
- ・ 子ども、親子、シニアなど、緊急で駆け込める場所がない
- ・ 申請が通らないと利用できないヘルパーなどの派遣 等々

《実施によって見えてきた地域の課題》

3) 具体的支援に関わる事業所・病院・学校・デイ等々は、原則制度上本人の申出がなければ動けない？

※各直接支援機関と、しっかりと繋がりきるまで（本人が自ら必要に応じてアプローチできる関係性を築けるまで）の、**中間支援（背中を押してみたり、意思を確認してみたり、オーダーメイドな相談支援で行ってきたその人に応じた柔軟で個別の対応）**といったサポートの必要性を、制度のありかたから、より実感した。

※こなさなければならない対象者は多く、事業所などでは難しい対応ではある。

《実施によって見えてきた地域の課題》

4) 家族の中で重層的に課題を抱えているケースが多い

※家族で、保護者自身が課題を抱えている場合、それに絡み子どもにも課題があり、といったように、重層的に家族の中に様々な課題を抱え、その課題がライフサイクルに応じて浮上してくる。そのため、一つ課題が解決しても、次の課題が出てくるというケースも多い。

※ 現在の支援体制は、縦割りで、個人のそれぞれの課題の分野や管轄で把握されるため、家族の全体像が見えづらい。

《 今後に向けて 》

☆ねっこぼっこのいえが見つめているもの☆

- 1) 生活圏により近い場所に、本事業のような機能を併せ持った安心安全な居場所をできるだけ増やしていけるように。
- 2) スタッフが比較的継続して関わる事が可能な民間の独自の働き（利用者が親しみを感じて長い時間軸で活用しやすい、訪ねやすい、融通の利いた動きが取れる…など）が広く認知され、安定・継続的に働きを担えるように。
- 3) 支援の働きに於いて、官民双方が相互の働きを補完し合い、面で繋がる支援体制を構築することで、要支援者が支援のはざまに落ち込まないように。



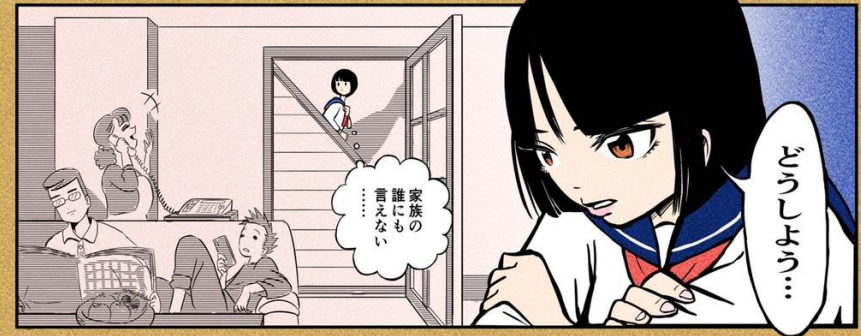
この実現のために必要な声を出し、引続き相談支援事業に携わりながら、地域の関係団体地域資源が連携することで、1)～3)が可能となる仕組みづくりや支援体制について模索していく。同時に、こうした事業の必要性に対する理解者を広く得る努力をかさね、安定的で継続した事業運営のために、地域子育て支援事業への利用者支援事業民間委託を目指す。



今回のリスタート事業で作成することのできた
チラシ →

ここに描かれていることは、
一つ一つの相談事の中で、
まさに現実のつぶやきとして届いてきた。
このチラシが広く色々な人の
元へと届くような
働きかけを続けたい…

～相談支援事業～

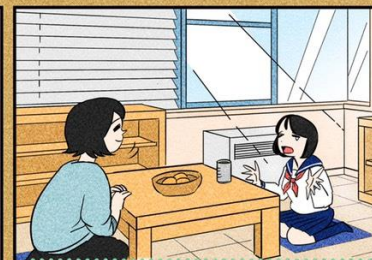


専用電話
☎ 090-5949-4783
(平日 10:00～17:00)

専用メールアドレス
2020neko@gmail.com

※件名「相談支援事業」
・お名前
・連絡先(メールアドレス、電話番号)
・連絡して良い時間帯
・相談内容

をお書き下さい。
後日、ご連絡します。



『相談支援事業』では、担当スタッフが困りごとを聞き、
一緒に相談先を探す・申請書(簡易なもの)の記入を手伝う
必要であれば窓口への付き添いをする
...など、その方に必要な窓口につながるお手伝いをします。
※対象:子育て中の親、子ども若者など (相談無料)



この事業は休職預金を
活用した事業です。
(2022.2月まで)

NPO法人

ねっころっころ